

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目		看護学概論		担当講師		専任教員			
学科名		学 年		単位(時間数)		授業の種類		実 施 時 期	
第二看護学科		1 年		1 (20)		講義		令和6年度前期	
科目目標 看護の対象である人間と健康を理解し、総合看護の概念に基づく、看護の本質、看護の理論、看護の機能と役割について理解する。									
授業概要 この科目は、「看護とは何か」「看護師は何をする人か」という看護の本質について考える授業である。看護の対象である「人間」や「健康」について看護としての捉え方を学習し、看護が行われている場や看護活動の実際について知る。これらの学習過程を通して、「看護」とは何かについて自分なりの考えをもち、自分の言葉で語れるようになる。									
卒業時到達目標との関連 DP- ①・②・3・4・5・6・7・8・9・⑩・⑪・12									
1	2	1. 看護の本質 1) 看護の変遷 2) 看護の定義 3) 看護の役割と機能 4) 看護の継続性と連携				8	2	5. 看護の倫理 1) 倫理を学ぶ目的 2) 医療職の倫理規定	
2	2					9	2	6. 看護の提供のしくみ 1) チーム医療 2) 看護サービスの提供の場 3) 看護実践と看護理論	
3	2	2. 看護の対象 1) 人間のこころとからだの理解 2) 生涯発達する存在としての理解 3) 人間の「暮らし」の理解				10	2		
4	2								
5	2	3. 健康の概念 1) 健康のとらえ方 ①健康とはなにか ②健康でない状態とはどのようなものか ③障害とはなにか 2) 健康と病気と看護				【テキスト・参考書】 ・看護学概論 医学書院 ・看護覚え書き ・看護の基本となるもの ・看護六法 ・ナイチンゲール看護論入門			
6	2								
7	2	4. 看護の提供者 1) 看護職の資格 2) 看護職のキャリア開発				【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ 授業前事前課題			

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目		看護活動と倫理		担当講師	専任教員
学 科 名		学 年	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科		1 年	1 (15)	講義	令和6年度後期
科目目標					
看護活動における倫理の意義と倫理的課題へのアプローチ方法を理解する。					
1 看護活動における倫理の意義を理解する。					
2 看護倫理を医療の歴史的推移から理解する。					
3 看護における倫理的課題へのアプローチ方法を理解する。					
4 看護研究における倫理について理解する。					
5 看護活動場面における倫理的意思決定のステップについて理解する。					
授業概要					
看護倫理は、看護師の看護活動の基盤をなすものである。看護倫理について具体的な事例を用いて、解決方法を考える。					
卒業時到達目標との関連					
DP- 1・②・3・4・5・⑥・7・8・9・10・11・⑫					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	2	看護活動における倫理の意義			
2	2	看護倫理の歴史的推移			
3	2	看護倫理のアプローチ① 徳の倫理			
4	2	看護倫理のアプローチ② 原則の倫理			
5	2	倫理的課題のある事例の検討①			
6	2	倫理的課題のある事例の検討②			
7	2	倫理的課題のある事例の検討③			
8	1	倫理まとめ			
【テキスト・参考書】					
・看護倫理 よい看護、よい看護師への道しるべ、南江堂					
・基礎看護学 看護学概論 医学書院					
・身近な事例で学ぶ看護倫理 中央法規社					
【成績評価の方法】					
■ 筆記試験					
■ レポート					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目		看護技術演習 I		担当講師	専任教員	
学 科 名	学年	単位（時間数）		授業の種類	実 施 時 期	
第二看護学科	1 年	1（25）		演習	令和6年前期	
科目目標 看護技術の科学的根拠を明確にし、対象の状況に合わせて日常生活援助技術が実践・評価できるための知識・技術・態度を習得する。						
授業概要： ここでは、看護技術の科学的根拠について理解を深め、さらに対象の状況に合わせるためのアセスメントの視点を理解できるように学習する。 対象の状況に合わせた日常生活援助技術では、紙上事例の状況をアセスメントして具体的な方法を計画し、実施ができるように学習する。これらの学習を通して、看護技術は対象の状況に合わせて方法を考え、実践においては評価をふまえてよりよい方法を追及していくことの必要性を理解する。						
卒業時到達目標との関連 DP- ①・②・③・④・5・⑥・7・8・9・⑩・⑪・⑫						
回数	時間数	授業内容		回数	時間数	授業内容
1	2	1. 看護技術とは 1) 看護技術とは 2) 看護技術を適切に実践するための要素		10	2	3. 対象に合わせた看護技術 3) 全身清拭・寝衣交換
2	2	2. 科学的根拠に基づいた看護技術 1) 血圧測定に関する科学的根拠		11	2	3. 対象に合わせた看護技術 3) 全身清拭・寝衣交換
3	2	2. 科学的根拠に基づいた看護技術 1) 血圧測定に関する科学的根拠		12	2	3. 対象に合わせた看護技術 3) 全身清拭・寝衣交換
4	2	2. 科学的根拠に基づいた看護技術 2) 活動に関する科学的根拠		13	1	3. 対象に合わせた看護技術 4) 実践の評価
5	2	2. 科学的根拠に基づいた看護技術 2) 活動に関する科学的根拠		【テキスト・参考書】 1) 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ、医学書院 2) 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ、医学書院 《参考書》 1) 竹尾恵子：看護技術プラクティス、学研 2) 看護技術がみえる1・2、MEDIC MEDIA 3) 村中他：看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版		
6	2	2. 科学的根拠に基づいた看護技術 2) 活動に関する科学的根拠				
7	2	3. 対象に合わせた看護技術 1) 対象に合わせた看護技術とは				
8	2	3. 対象に合わせた看護技術 2) 環境調整（臥床患者シーツ交換）		【成績評価の方法】 ■ 技術試験（日常生活の援助技術） ■ 筆記試験		
9	2	3. 対象に合わせた看護技術 2) 環境調整（臥床患者シーツ交換）				

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目 名	看護技術演習Ⅱ		担当講師	専任教員
学 科 名	学年	単位（時間数）	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	1 年	1（15）	演習	令和6年度後期
科目目標： 看護技術の科学的根拠を明確にし、対象の状況に合わせて治療援助技術及び指導技術が実践・評価できるための知識・技術・態度を習得する。				
授業概要： ここでは、対象の状況に合わせた治療援助技術について、紙上事例の状況をアセスメントして具体的な方法を計画し、実施ができるように学習する。また、指導技術ではコミュニケーションを通して対象を理解することや、指導技術の基本を学び、対象に合わせた指導を実施する。 これらの学習を通して、看護技術は対象の状況に合わせて方法を考え、実践においては評価をふまえてよりよい方法を追究していくことの必要性を理解する。				
卒業時到達目標との関連 DP- ①・②・③・④・5・⑥・7・8・9・⑩・⑪・⑫				
回数	時間数	授 業 内 容		
1	2	1. 対象に合わせた治療援助技術 1) 治療援助技術とは 2) 薬物療法と看護 (1) 与薬に関する基礎知識 (2) 経口与薬・口腔内与薬・吸入・点眼・外用薬		
2	2	2) 薬物療法と看護 (1) 注射法の基礎知識		
3	2	2) 薬物療法と看護 (1) 皮内注射・皮下注射・筋肉注射・静脈注射の基礎知識 (2) 薬剤の計算方法		
4	2	2) 薬物療法と看護（演習） (1) 点滴滴下計算・滴下調整 (2) 筋肉注射の実際 注射器の取り扱い・薬剤の吸い上げ①、モデル人形への筋肉注射（三角筋）		
5	2	2) 薬物療法と看護（演習） (1) 筋肉注射の実際 注射器の取り扱い・薬剤の吸い上げ②、モデル人形への筋肉注射（三角筋） (2) 中殿筋（四分三分法）の部位選定		
6	2	2. 指導技術 1) 指導技術の基礎知識 2) 看護の教育機能 3) 指導技術の基本となるもの 4) 指導の進め方		
7	2	5) 事例を用いた指導の実際 実施		
8	1	6) 事例を用いた指導の検討 評価		
【テキスト・参考書】 1) 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ、医学書院 2) 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ、医学書院 《参考書》 1) 竹尾恵子：看護技術プラクティス、学研 2) 看護技術がみえる1・2、MEDIC MEDIA 3) 村中他：看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版			【成績評価の方法】 ■ 演習内容（課題、レポート等）（指導技術） ■ 筆記試験	

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目		フィジカルアセスメント	担当講師	専任教員
学 科 名	学 年	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	1 年	1 (15)	講義	令和 6 年度前期
科目目標				
1. 対象の訴えから身体的状態を把握し、看護を実践するためのアセスメント技術を習得する。 (1) 身体的機能別（呼吸器系・循環器系・消化器系・運動器系）のアセスメント項目の理解ができる。 (2) 呼吸器系・循環器系・消化器系・運動器系のフィジカルアセスメントの実施ができる。 (3) 症状や徴候からのアセスメントの方法が理解できる。				
授業概要				
フィジカルアセスメントは、主観的情報と客観的情報を統合してください、身体状況に対する判断である。そのため、客観的情報を得るための方法を習得しておかなければならない。特に臨地で観察・評価を行う胸部・腹部の触診と聴診、また、炎症症状でよくみられるリンパの腫脹の観察が行われるようにする必要がある。まず、正常な身体状況から、異常がおきた時の身体状況についての違いは何か、何をどのようにフィジカルアセスメント技術を使い身体状況の観察を行うかを教授する。				
卒業時到達目標との関連				
DP- ①・2・3・4・5・6・⑦・8・9・10・11・12				
回数	時間数	授 業 内 容		
1	2	1. フィジカルアセスメントとは 1) 看護におけるフィジカルアセスメントとは 2. 問診とフィジカルアセスメント		
2	2	2. 呼吸器系の構造メカニズム 1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント ①問診 ②視診（部位別）③触診 ④打診 ⑤聴診（正常呼吸音・異常呼吸音）		
3	2	3. 心臓の構造とメカニズム 1) 循環器系のフィジカルアセスメント ①問診 ②視診（部位別）③触診 ④打診 ⑤聴診（正常心音・異常心音）		
4	2	4. 消化器の構造とメカニズム 1) 腹部のフィジカルイグザミネーション ①問診 ②視診 ③触診（部位） ④打診 ⑤聴診(腸蠕動音の聴取)		
5	2	5. 運動器・神経系の構造とメカニズム 1) 運動器系のフィジカルアセスメント ①関節可動域の測定 ②筋力の評価 2) 神経系のフィジカルアセスメント ①意識レベルの評価 ②瞳孔および対光反射の確認		
6	2	6. 事例のフィジカルアセスメント（演習） 1) 問診 2) フィジカルイグザミネーション 3) アセスメント（考えられる病態や予測） 4) 看護の方向性		
7	2	6. 事例のフィジカルアセスメント（演習） 1) 問診 2) フィジカルイグザミネーションの実施		
8	1	3) アセスメント（考えられる病態や予測） 4) 看護の方向性		
【テキスト・参考書】				
・フィジカルアセスメント完全ガイド 学研、				
・基礎看護技術Ⅰ 医学書院				
【成績評価の方法】				
■筆記試験				

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目		看護過程		担当講師	専任教員	
学 科 名	学 年	単位(時間数)		授業の種類	実 施 時 期	
第二看護学科	1 年	2 (45)		講義	令和6年度前期・後期	
科目目標						
看護を展開する上で必要な基本的な思考のプロセスを理解し、方法を習得する。						
1. 看護過程の構造やその基盤となる考え方が理解できる。						
2. 看護過程の各プロセスにおける思考の内容が理解できる。						
3. 臨床判断を行うための基礎知識について理解でき、演習を通して意図的な情報収集ができる。						
授業概要						
授業ではまず、看護過程は看護師の思考を明確にし、よりよい実践を行うために必要であることを理解し、問題解決技法の5段階（アセスメント、問題の特定／診断、計画、実施、評価）の思考を進めることで、個別的な看護を提供していくことを理解できるようにする。「どう書くか」ではなく、「どう思考するのか」ということを理解できるように学生に考えてもらう授業を行う。また、臨床の場で看護師は目の前にいる対象の変化に気づき、状況をとらえ、どう反応するかという行動につながる判断、つまり臨床判断が求められる。講義や演習を通し、臨床判断を行うための基本的な考え方や方法について学ぶ。						
卒業時到達目標との関連						
DP- ①・2・3・4・⑤・⑥・7・8・9・10・11・12						
回数	時間数	授業内容		回数	時間数	授業内容
1	2	1 看護過程とは 1) 看護過程と5つの構成要素 2) 看護過程展開の基盤となる考え方 3) 問題解決過程 4) クリティカルシンキング 5) 倫理的配慮と価値判断 6) リフレクション		16	2	5) 「アセスメント用紙」の完成と発表準備
2・3	4	2 看護過程の各段階 ① 「アセスメント」 1) アセスメントとは 2) 情報収集とは 3) 情報収集の方法、分析、解釈 4) アセスメント枠組みヘンダーソン看護理論		17	2	6) 中間発表
4・5	4	3 看護過程の各段階 ② 「看護問題の明確化」 1) 看護問題の明確化とは 2) 看護問題の命名 3) 看護問題の優先順位の決定 4) 看護問題と共同問題		18 19 20	6	8 看護上の問題の修正 9 目標設定 1) 長期目標 2) 短期目標 10 看護計画の立案
6・7	4	4 看護過程の各段階 ③ 「計画」 1) 看護目標の設定 2) 期待される結果の明確化 3) 具体策の立案		21	2	11 最終発表 発表後、看護計画の修正 振り返り
8	2	5 看護過程の各段階 ④ 「実施」 1) 実施の流れ 2) 報告と記録 (SOAP方式) 6 看護過程の各段階 ⑤ 「評価」 1) 評価方法、修正		22	2	12 臨床判断の考え方 1) 臨床判断とは ①気づき ②解釈 ③反応 ④省察 2) 看護過程との関係
9	2	7 ニード毎に必要な情報収集・整理と分析・解釈 1) 情報収集と整理 2) 分析解釈		23	2	13 臨床判断に必要な意図的な情報収集の実際 1) 症状観察の計画 2) 観察の実施 (シュミレーション) 3) 振り返り
10	2	3) 気になるニードの分析・解釈のグループワーク		【テキスト】 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ、医学書院 【参考書】 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、HIROKAWA		
11 12 13 14 15	10	4) ニード間の関連について考える		【成績評価の方法】 ■ 参加度 ■ 課題 ルーブリック評価		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目		看護研究の基礎		担当講師	専任教員	
学 科 名	学 年	単位(時間数)		授業の種類	実 施 時 期	
第二看護学科	1 年	1 (30)		講義	令和6年度後期	
科目目標						
看護研究の基礎的知識を学ぶ。						
授業概要						
看護研究は、研究手法を用いてよりよい看護が実践できる基盤を追及する過程である。看護研究の基礎的な知識については、学生が関心をもった課題について実際に研究のプロセスをなぞりながら、研究計画書の作成、データ収集や分析の方法、論文の書き方を学習する。 ケーススタディのまとめ方については、次年度に行うケーススタディの作成につながるよう受持った事例をまとめるとするとどのようになるかをイメージできるよう授業を行う。						
卒業時到達目標との関連						
DP- 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・⑫						
回数	時間数	授業内容		回数	時間数	授業内容
1	2	1. 看護における研究 1) 研究とは 2) 研究プロセス 3) 研究の種類とレベル		10	2	6. データの分析 1) 量的データの集計と分析 2) 質的データの分析
2	2	2. 研究課題の明確化と文献 1) 問題点の明確化 2) 文献とは 3) 文献の種類 4) 文献探索のポイント 5) 文献カード		11	2	7. 研究計画書の記述
3	2			12	2	8. 事例研究（ケーススタディ）のまとめ方①
4	2	3. 看護研究の進め方 1) 研究課題（テーマ）の検討と決定		13	2	8. 事例研究（ケーススタディ）のまとめ方②
5	2			14	2	8. 事例研究（ケーススタディ）のまとめ方③ エピソードの書き方
6	2	4. 研究デザイン 1) 研究のデザインと研究のレベル 2) 実験的研究デザインと非実験的研究デザイン		15	2	9. 研究の評価 研究の発表と倫理
7	2			【テキスト・参考書】 別巻 看護研究 医学書院		
8	2					
9	2	5. データ収集 1) 研究対象の決定 標本の抽出 2) 観察法、面接法、質問紙法		【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ 演習の参加状況やレポート		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目		臨床看護総論		担当講師名		専任教員			
学 科 名		学 年		単位（時間数）		授業の種類		実施時期	
第二看護学科		1		1（20）		講義		令和6年度後期	
科目目標： 1 主要症状が出現するメカニズムを理解し、行われる治療の目的がわかる。 2 主要症状が患者に及ぼす影響を理解し、症状の軽減または悪化予防のための基本的な援助がわかる。 3 各治療法の目的や各治療法を受ける患者の特徴をふまえて基本的な援助がわかる。 4 モデル人形で救急蘇生法（気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫・AED、止血法）が正しく実施できる。									
授業概要 臨床看護総論では、看護の対象となる人々、とくに、健康障害をもつ対象を理解し、治療・健康状態に応じた看護の考え方とその実際を学び、臨地での看護実践に活用できる知識・技術を習得する。									
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・5・⑥・7・8・9・10・11・12									
回数	時間数	授 業 内 容				回数	時間数	授 業 内 容	
1	2	主要症状別看護 1 発熱 1) 発熱とは 2) 原因および誘因，メカニズム 3) 心身に及ぼす影響 4) 主な治療				6	2	8 化学療法 1) 化学療法とは 2) 化学療法を受ける患者の特徴 3) 化学療法を必要とする患者の看護	
2	2	2 脱水 1) 脱水とは（定義・分類・特徴） 2) 原因および誘因，メカニズム 3) 心身に及ぼす影響 4) 主な治療 5) 脱水をおこしている患者の看護				7	2	9 放射線療法 1) 放射線療法とは 2) 放射線療法を受ける患者の特徴 3) 放射線療法を必要とする患者の看護	
3	2	3 浮腫 1) 浮腫とは（定義・分類・特徴） 2) 原因および誘因，メカニズム 3) 心身に及ぼす影響 4) 主な治療 5) 浮腫のある患者への看護				8	2	10 創傷処置（外部講師） 1) 創傷とは 2) 創傷の治癒過程 3) 創傷の処置と看護傷処置で用いられる代表的な消毒薬の特徴 4) 褥瘡ケア	
4	1	4 痛み 1) 痛みとは 2) 痛みに影響する心理的要因 3) 痛みのメカニズム 4) 痛みの基本的治療 5) 痛みのある患者への看護				9・10	4	11 救急法の実際 1) 2020JRCガイドラインに準じた救急法 2) 一次救命処置に必要な技術 ・ 気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫の実施，AEDの実施 3) 状況に応じたBLSの実施	
	1	5 掻痒感 1) 掻痒感とは（定義・分類・特徴） 2) 原因および誘因，メカニズム 3) 心身に及ぼす影響 4) 主な治療 5) 掻痒感のある患者への看護							
5	1	6 電法 1) 電法とはなにか 2) 冷電法 3) 温電法 4) 電法の実際				【テキスト】 ・看護過程に沿った対症看護，学研 ・基礎看護学 臨床看護総論，医学書院 【参考図書】 ・竹尾恵子監修：Latest看護技術プラクティス，学研 ・山崎達枝：災害現場でのトリアージと応急処置，日本看護協会出版会，2009.			
	1	治療処置別看護 7 安静療法 1) 安静療法とは 2) 安静療法を必要とする患者の特徴 3) 安静療法を必要とする患者の看護				【成績評価の方法】 ■ 課題，レポート ■ 筆記試験 ■ 授業態度			